



令和5年10月25日

# 長崎県内経済情勢報告

令和5年10月

財務省福岡財務支局 長崎財務事務所

〔問い合わせ先〕

財務省 福岡財務支局

長崎財務事務所 財務課

電話 095-827-7095

## 1. 総論

### 【総括判断】

### 「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→

（注）5年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

### （判断の要点）

個人消費は、回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

### 【各項目の判断】

項目	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較
個人消費	回復しつつある	回復しつつある	→
生産活動	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	5年度は増加見込み	5年度は増加見込み	→
企業収益	5年度は増益見込み	5年度は増益見込み	→
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	↘

### 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外景気の下振れや物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「回復しつつある」

百貨店・スーパー販売額は、外出機会の増加により、衣料品や化粧品が好調であるほか、商品単価の上昇などから、前年を上回っている。ただし、一部では物価高の影響により、買い上げ点数の減少などがみられる。

コンビニエンスストア販売額は、観光地やオフィス街で来店客が増加するなど、前年を上回っている。

専門量販店販売額は、前年を上回っている。

乗用車新車登録・届出台数は、自動車減産の影響緩和による納期の改善により、前年を上回っている。

観光は、主要観光施設の入場者数・主要地区の宿泊者数をみると、感染症の5類移行などにより、前年を上回っている。

(主なヒアリング結果)

- 感染症の5類移行もあり、催事を中心に来店客が増加しているほか、化粧品の売上も好調である。今後は売上、来店客ともにコロナ禍前の水準への回復を期待している。(百貨店・スーパー)
- 物価高の影響により一部で買い控えがみられるものの、度重なる商品の値上げにより売上は前年を上回っている。10月以降も商品の値上げは続く見込みであり、プレミアム商品券を発行することで消費喚起を促していく。(百貨店・スーパー)
- 自動車減産の影響緩和により納期の遅れが改善しており、受注も堅調であるため、売上は前年を上回っている。今後も新車需要については、堅調に推移する見込み。(自動車販売)
- 感染症の5類移行に伴い、イベントや学会関係者などの宿泊需要は増加しており、売上は好調に推移している。10月も各種団体の会合参加者などからの予約が入っており、ホテルの稼働率は高水準で推移する見通し。(宿泊)
- 旅行支援の効果が薄れてきたことや猛暑の影響により、個人客等の動きに鈍さがみられたものの、修学旅行客は好調を維持している。10月も修学旅行客は好調であるほか、4年ぶりに開催される長崎くんち関連の予約も入っている。(宿泊)
- 外国人客がコロナ禍前と同水準まで回復しているほか、個人旅行者や団体旅行者も堅調であるなど、業況は好調を維持している。今後はホテルのリニューアルや新規イベントの実施によって、更なる来場者の増加を期待している。(娯楽)

### ■ 生産活動 「持ち直しつつある」

生産活動を主要業種でみると、電子部品・デバイスは、一部に弱い動きがみられるものの、高水準で推移している。はん用・生産用機械は、増加傾向にある。造船は、緩やかに増加している。

- 半導体需要の減速により、家電向けなど一部の製品で弱さがみられるものの、産業機器向けでは好調を維持しているなど、全体としてみれば受注残解消のため、フル稼働に近い水準での生産が続いている。(電子部品・デバイス)
- 受注環境は厳しい状況が続いているものの、今年度の生産高は前年度比漸増する見通し。(はん用・生産用機械)
- 新造船価が高水準で推移しているものの、一定水準の受注隻数は確保できており、生産高は増加傾向にある。鋼材・資機材の価格高騰が継続しており、利益を圧迫している。(造船)

### ■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

製造業等で求人が増加しており、有効求人倍率は堅調に推移しているなど、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- 観光需要の回復に加え、今後の事業拡大を考慮すると、現在の人員では人手が不足している。継続的な賃上げや年間公休数の増加による処遇改善のほか、アルバイトの正社員登用を実施するなどして人員を確保していく方針。(娯楽)
- 新工場の稼働により、人手が不足しているため、追加採用を引き続き実施していく。(造船)
- 新規求人は、観光需要の回復により、食料品製造業や警備業で求人が増加しているほか、造船業などでも求人は増加基調にあり、高水準を維持している。(公的機関)

■ 設備投資 「5年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期

5年度の設備投資額(ソフトウェア投資額を含む、土地購入額を除く)は、製造業は前年比41.3%の増加見込み、非製造業は同131.3%の増加見込みとなっており、全産業では同59.4%の増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「5年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期

5年度の経常利益(「電気・ガス・水道業」及び「金融業、保険業」を除く)は、製造業は前年比19.8%の増益見込み、非製造業は同6.8%の減益見込みとなっており、全産業では同10.7%の増益見込みとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数で見ると、前年を下回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査(5年7-9月期)の景況判断BSIで見ると、5年7-9月期は引き続き「上昇」超。先行きについては、5年10-12月期は引き続き「上昇」超の見通しとなっている。
- 公共事業を公共工事前払金保証請負金額(5年度累計)で見ると、前年度を上回っている。